

お知らせ

「鉄と鋼」埋草記事投稿のお勧め

本会会員はどなたでも会誌「鉄と鋼」にコラム、統計等の埋草記事を投稿することができますので、振るつてご投稿下さるようお勧めいたします。

埋草記事は会誌の解説、論文等の余白ページに掲載いたします。

(埋草記事) コラム、統計等

特に記事内容の定義はいたしません、何らかの形で本会会員に関心をもたれる内容であるものとします。

(記事の量) 所定の原稿用紙2枚(1000字)程度(会誌刷り上り1/2ページ程度)

(記事の掲載) 記事の掲載に当たっては、和文会誌分科会で査読をいたします。従つて、掲載にふさわしくないと判断された場合は返却することもありますのであらかじめご了承下さい。

なお、採用された記事については薄謝をさしあげます。

掲載された記事の中から、和文会誌分科会で優秀作品2~3件を半年ごとに選考し、埋草賞をお贈りします。

編集後記

例年にくらべ2週間ほど早く桜前線が北上している今3月下旬、印象的な二つの出来事が新聞等で報道されました。

ひとつは、フィギュアスケートの1989年世界選手権大会で、伊藤みどり選手が日本人初の世界チャンピオンに輝いたことです。彼女は世界の女子でただ一人しかできないトリプルアクセル(3回転半ジャンプ)を武器に金メダルを獲得しました。苦手な規定演技のときは、大学受験生のようにメガネをかけ、緊張していたのが、得意の自由演技になると鳥が飛ぶように軽やかに舞っている姿が非常に大きく見えたのは私だけではないと思います。

しかし、彼女の専売特許のトリプルアクセルもあと数年後には大半の選手が自分の技とし、一般化することは確実と言えるでしょう。スポーツ界での厳しい競争の中で、その頂点に立つた伊藤みどり選手の努力に心からの拍手を送りたいと思います。

他のひとつは、日本初の洋式高炉誕生の地釜石で、3月25日に最後の高炉の火が消えたことです。1858

年に大島高任らの先駆的な技術者が中心に洋式高炉を稼働させていらい、130年もの長期にわたり、銑鉄の生産を続けた釜石の地から高炉の火が消えることは、鉄鋼業に係わる一人としてさびしさを感じるしだいあります。

この全く分野を異にし、明暗両極端の二つの出来事は人生すべての事象が常に変化を続け、一時たりとも停滞しないことを強く感じさせてくれました。

日本鉄鋼業および鉄鋼研究が世界の頂点にあり、今後ともこの地位を保つためには、鉄鋼業の技術革新と他分野の新技术の活用を図る必要があることは衆目の一致するところでもあります。その意味で、「鉄と鋼」は、掲載される論文、技術報告、解説等も相当広範囲な内容になり、時代の変化に対応してうまく変身がはかれています。

技術革新の「芽」あるいは「実」としての数多くの論文等を「鉄と鋼」に投稿し、それらが自由な議論の場を与え、さらなる技術、研究への発展のトリガーになるように頑張ろうではありませんか。(Y. S.)